

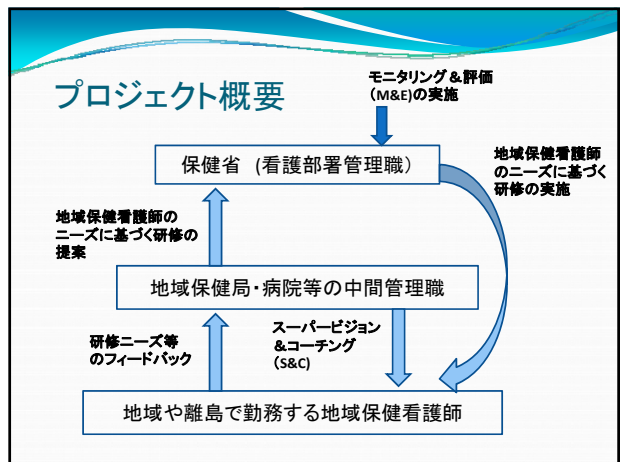
「島国における地域看護 ～フィジー・トンガの事例から～」

シニア・プログラムオフィサー 小林美紀

フィジー、トンガの位置

大洋州地域 地域保健看護師のための 「ニーズに基づく現任研修」強化プロジェクト

- JICA技術協カプロジェクト
(株式会社コーエイ総合研究所との共同実施)
- 対象国: フィジー、トンガ、バヌアツ
- 実施期間: 2010年10月～2014年4月
- カウンターパート: 各国保健省看護担当部署



トンガ王国

行政区分

4地域(トンガタブ、
ババウ、ハアパイ、
ニウアス)

トンガ基礎データ

基礎データ(2010年)
 人口: 104,000人
 面積: 750km²(対馬とほぼ同じ)
 ヌクアロファ(人口34,000人)
 一人当たりGNI(購買力平価): \$4,580

保健データ(2010年)
 出生時平均余命: 72
 5歳未満乳幼児死亡率(出生千対): 16
 妊産婦死亡率(出生十萬対): 110

保健人材(2010年)
 内科医数(人口一萬対): 2.9
 看護師・助産師数: 29.3

出典: WHO Health Profile
<http://www.who.int/gho/countries/tng.pdf>



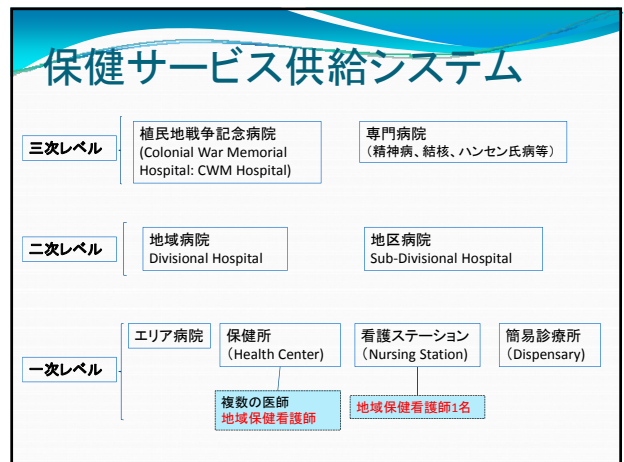
フィジー 基礎データ

基礎データ (2010年)
 面積: 18,300km² (四国とほぼ同じ)
 人口: 861,000人 (フィジー系57%、インド系38%)
 首都: スバ(人口75,000人)
 一人当たりGNI(購買力平価): \$4,510

保健データ(2010年)
 出生時平均余命(男/女): 69
 5歳未満乳幼児死亡率(出生千対): 17
 妊産婦死亡率(出生十萬対): 26

保健人材
 内科医数(人口一万対): 4.3
 看護師・助産師数: 22.4

出典: WHO Health Profile
<http://www.who.int/gha/countries/fji.pdf>



Vaiola Hospital



RHC受付

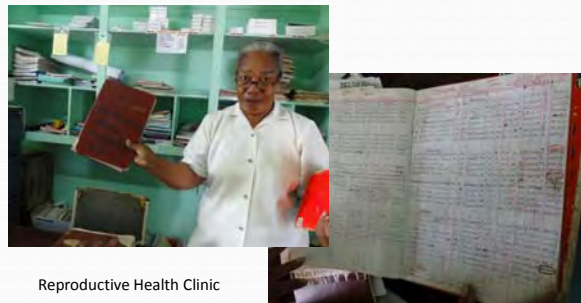
薬局

Prince Ngu Hospital, Vava'u



スタッフリスト

Prince Ngu Hospital, Vava'u



Reproductive Health Clinic

トンガでのインパクト調査

	実施時期	目的
ベースライン調査	2011年7月-10月	プロジェクト開始時のベースラインデータ収集、プロジェクトのデザイン検討
中間調査	2012年5月-8月	ベースラインデータとの比較(プロジェクトの進捗確認)、(必要であれば)プロジェクトの方向修正
エンドライン調査	2013年2月-5月 予定?????	ベースラインデータとの比較(プロジェクトの成果確認)

ベースライン調査の結果まとめ1

- 若手看護師ほどエリート？
(2002年より看護学校の卒業資格が大卒相当に引き上げられた。看護学校入学競争率の上昇等の理由による。)
- 臨床看護師ほど出世コース？
- 一度地域保健看護師に転出してしまうと配置換えが少なく、臨床への復帰はなし？

↓

地理的には勤務地が首都から離れるほど、年齢が上がるほど、看護師としての知識や技術をアップデートするチャンスがないことが分かった。

ベースライン調査の結果まとめ2

- 看護師としての能力を測定する能力測定はプロジェクト開始前から行われていた。
- 看護指導者によるスーパービジョンも行われていた。
- コーチングは新しい概念。
- 現任研修も、様々なテーマについて量的には十分に行われていることが分かった。

↓

看護指導者と部下との関係がトップダウンなので、コミュニケーションの見直し、改善が必要である。それにより、看護師のニーズが指導者、保健省に的確に伝わり、「ニーズに基づく現任研修」が行われるようになるのでは？

プロジェクト活動: スーパービジョン&コーチング(S&C)



トンガタブ地域
Nukunuku保健所

プロジェクト活動: 能力測定



能力基準の作成
↓
能力基準に基づくチェックリスト、測定用記入フォームを作成
↓
看護師自身による自己能力測定
↓
看護指導者による能力測定
↓
両者の話し合いにより能力測定の最終結果確定

トンガタブ地域Kolomotu'a 1保健所

中間調査時に感じた変化

日本人チーム不在時でも、トンガのカウンターパートが活動の趣旨をよく理解し、能力測定、S&Cなどの研修、活動実施を進めた。

↓

- 看護師の看護指導者に対する評価が上がった。(よく話を聞いてくれる、管理職としてのリーダーシップの改善等)
- 看護師が能力基準、能力測定の趣旨について昨年よりよく理解していた。(アピールのため、自己評価の点数を高くつける等の問題がなくなった。)
- 看護師と看護指導者の間で研修ニーズについて話す機会が増えた。

